「求名小学校の鷹踊り伝承活動の取組」

１　学校名

さつま町立求名小学校

２　学年・人数

３～６年　　計15人（３年２人，４年３人，５年５人，６年５人）

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和５年９月６日～15日　総合的な学習の時間　求名小体育館
令和６年３月５日～15日　総合的な学習の時間　求名小体育館

⑵　発表の日時・場所

令和５年９月17日　求名小学校大運動会　　求名小学校校庭
令和６年３月16日　求名小学校閉校記念行事　　求名小学校校庭

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

⑴　名称

鷹踊り（たかおどり）

⑵　由来

江戸時代に行われた領主の鷹狩りの様子を踊りとしたのが始まりで，かつての求名村の鎮守神で現在も地区の中心である稲富神社の祭礼や領主の領内巡視のときに踊られ，領民の安全と狩猟の際の獲物の鎮魂を祈ったとされる。「鷹狩り」を元にした類似の踊りがあるが，求名から広まったと言われる。1961年に鹿児島県の無形民俗文化財第１号として指定され，1988年には文化財少年団が発足し，伝承活動に努めている。

⑶　構成等

鷹（タカと呼ばれる領主役）と餌刺し（エサシと呼ばれる家臣役）に分かれ，タカは陣笠に黒紋付き袴姿で，右手に扇子，左手に木製の鷹を持ち，エサシは笠に襷掛けのかすり着物姿で，餌刺し棒という房飾りのついた竹の棒を持つ。タカ役は基本的に男性が，エサシ役は基本的に女性が務め，10人ずつのタカとエサシがペアを組んで，縦一列に並ぶ。三味線と太鼓の演奏に合わせて，タカとエサシが交互に踊りを披露した後，両者同時に踊る。

５　保存会や地域との連携の具体

県の無形民俗文化財に指定されたこの「鷹踊り」は，求名区全体の誇りであるが，下手地区の公民会の住民や出身者によって伝承されている。その下手鷹踊り保存会の方々に御指導いただく形で，求名文化財少年団の活動をしている。保存会の方々からは，踊りの指導だけでなく，着付けの指導もいただき，児童のみならず保護者の郷土学習の場ともなっている。また，文化財少年団の活動にあたっては，求名公民館長に文化財少年団の副委員長を務めていただき，さらに校区から予算の面でも助成をいただき，衣装や道具の維持管理に役立てている。校区からの支援に応える意味でも，校区合同で行う求名小学校大運動会を披露の場とし，毎年，保護者の着付けによって衣装を身につけて踊っている。今年度は最後となるため，卒業生への声かけや参加依頼も検討しており，閉校記念行事の中でも披露することを計画している。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

児童数の増減があるため，本来の人数で常に踊りを披露することは難しく，現在は人数の減少によって３年生以上で取り組んでいる。総合的な学習の時間に位置づけ，郷土への理解を深め，郷土への愛情や誇りを持ち，郷土のよさと伝統を守り伝えていこうとする態度の育成を目指している。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

【体育館での練習】

【着付け講習会】

【運動会での披露】

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【６年生児童】

・　先輩たちが踊る姿を見て，ずっとかっこよくてすごいと思っていた。実際にすると，待っている姿勢がきつくて大変で，その分やり終えると達成感がある。

【教職員】

・　県の指定第１号ということがすごい。保存会の方々の熱心な指導の御陰で，児童もあっというまに覚えていくので感心させられる。

【保護者から】

・　人数が少なくなって，男女のバランスも難しくなり，３年生には負担も大きく感じる。そんな中でも，みんな練習も本番も一所懸命で，衣装を着るとりりしく見えて，とてもかっこよかった。

【地域の方から】

・　鷹踊りを見ると涙が出てくる。郷里の象徴に他ならない。ずっと無くさずに続けてほしい。